

## 3.1.2 農村地域における環境別の各漁具の適用性(まとめ)

## Point

- ため池での駆除
  - ✓ トラップ式漁具(カゴ網、連続捕獲装置、人工水草・巣穴等)による駆除が基本。
  - ✓ ため池はすり鉢状の構造で、万が一、人が落ちた時に這い上がるのが難しく非常に危険であるため、十分な安全対策が必要。
- 用排水路・水田での駆除
  - ✓ タモ網・サデ網と、トラップ式の漁具の組合せが効果的。
  - ✓ 泥上げ等の維持管理作業のタイミングで駆除すると効率的。

## (1) ため池における駆除

ため池は、アメリカザリガニの農村地域における主要な生息の場であり(2.3.1項参照)、周辺の用排水路や水田への個体の供給源として機能してしまう場所であると言えます。アメリカザリガニの拡散防止を図るためにも、ため池で駆除を進めることは非常に重要です。

ため池における駆除イメージを図3-3に示します。ため池は、急な流れはありませんが、基本的にすり鉢状の構造で、水深が深く、底の泥も柔らかい場合が多いため、人が立ち入ることは非常に危険な場所です(5.3.1項(8)の安全管理・対策(p141)も参照)。そのため、陸上から投げ込むことができるトラップ式の漁具(カゴ網、連続捕獲装置等)を使った駆除が基本となります。

水深がひざ下程度よりも浅く、法面の傾斜が非常に緩やかで、底質が固くて安定した歩行可能なエリアであれば、ため池内においても胴長やライフジャケットを着用した上で、タモ網やサデ網による捕獲を行うことも可能です。しかし、駆除作業に十分慣れるまでは、まずはトラップ式の漁具を用いた駆除に取り組みましょう。

なお、ため池は、基本的に水際部や水中に人が立ち入ることを想定した構造となっていないため、池の外からカゴ網等の漁具を設置・回収を行う場合であっても、第5章(p141)に示す十分な安全対策を講ずることにより駆除を実施する必要があります。

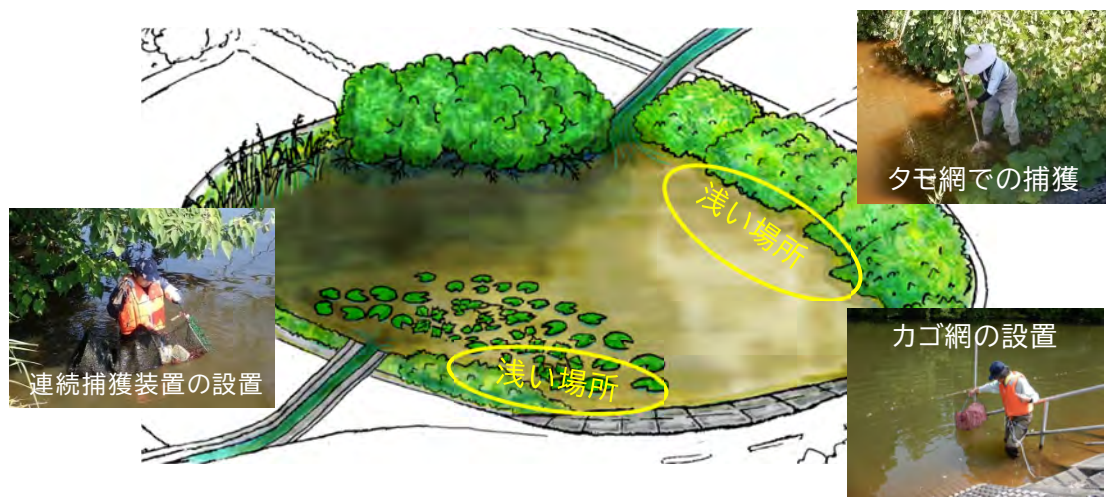


図 3-3 ため池における駆除のイメージ

ため池で駆除を実施する際は、事前に、ため池の管理者に水管理の状況（特に、池干しやかいぼり等の作業実施予定の有無や実施日）を確認します。池の水位の状況を確認することで、漁具の設置場所や立ち入る場所の計画を立てることができ、安全かつ効率の良い駆除が可能となります。

ため池内のアメリカザリガニを1匹残らず完全に駆除することは、相当な労力をかけたとしても非常に難しいとされています。駆除を始めるに当たっての最初の目標は、「完全駆除」ではなく、農業被害が生じない程度の個体数は残ってもよいとする「低密度管理」を目指すのが現実的です。低密度管理では、漁具の設置個数を少なくする等、駆除の労力を実現可能なレベルまで下げた上で駆除を継続します。

## (2) 用排水路・水田における駆除

用排水路は、アメリカザリガニの主要な拡散ルートとなるため、水路がどのようにつながり、水がどこからどこへ流れているのか（水域ネットワーク）を事前に把握しておくことが重要です。

用排水路では、コンクリート水路（2面張り、3面張り、柵きょ）や土水路、木柵、ブロックマット等の水路材質、水路幅や深さ、壁面の斜度等の水路構造、かんがい期と非かんがい期等の時期により異なる流量等のように、水路ごとにその特徴は多様です。そのため、駆除に用いる漁具は、駆除を実施する水路の特徴に合わせたものを選ぶことが重要です。

用排水路・水田における駆除イメージを図 3-4 に示します。



図 3-4 用排水路・水田における駆除のイメージ

用排水路は、非かんがい期には水深が浅くなることが多く、底質も安定している場合が多いため、水路内に人が立ち入っての捕獲作業が比較的行いやすい環境です。そのため、タモ網・サデ網のように人が操作する漁具とトラップ式漁具の両方を使った駆除が基本となります。人が容易に立っていられる程度に流速が遅い水路では、タモ網・サデ網を用いて水路内に生息する個体を効率的に捕獲することができます。暗きよ内のように人が立ち入りにくい場所や水深が深い場所に生息している個体は、トラップ式漁具（カゴ網、あなごカゴ等）を用いて駆除を行います。

維持管理の一環として水路内の泥上げを定期的に行っている地域においては、そのタイミングに合わせてアメリカザリガニの駆除を行うことで、作業の効率化が図れます。

用排水路・水田においても、駆除活動の着手時点での目標は低密度管理とし、その達成のためには定期的な駆除を継続して実施することが非常に重要です。また、作業中の事故の発生を防ぐため、第5章に示す十分な安全管理・対策（p141）を講ずることにより駆除を実施する必要があります。

図 3-5 に、実証調査においてため池や用排水路で大量に捕獲されたアメリカザリガニの様子を示します。場所や時期に応じた適切な方法で駆除を行うことができれば、以下のようにアメリカザリガニを大量に捕獲することも可能となります。



図 3-5 実証調査において大量に捕獲されたアメリカザリガニの様子(愛知県安城市)

(3) 環境別の各漁具の適用性のまとめ

ため池・用排水路・水田それぞれの環境における漁具の適用性のまとめを表 3-3 に示します。トラップ式漁具の設置には、ある程度の水深が必要であるため、用排水路や水田においては適用可能なものが限られてくる傾向があります。実際の駆除では、これらの水域ごとの適用性に加え、地域の実情（駆除に携わる人員の熟度等）を考慮して、駆除に用いる漁具を選択することが重要です。

表 3-3 各水域(ため池、用排水路、水田)における漁具の適用性

漁具/ 水域	ため池	用排水路※1・2	水田※1・2
カゴ網	◎ 陸上から設置・回収が可能な点から適する。	○ 漁具の入り口と誘引餌が十分に水中に浸る水深があり、流れが緩やかな場所であれば設置可能。	△ 設置に必要な水深が足りない場合が多い。
ペットボトルトラップ	△ ため池の規模によっては数多くの設置が必要という点で効率が悪い。	○ 餌が水中に浸る水深があれば設置可能。本体が軽く流されやすいので、紐等でしっかり固定する。	◎ 浅い水深でも設置可能であり、捕獲効率も良い。
人工水草	◎ 陸上から設置・回収が可能な点から適する。	○ 全体が水に浸かり、流れが緩やかな場所であれば設置可能。	△ 設置に必要な水深が足りない場合が多い。
連続捕獲装置	◎ 陸上から設置・回収が可能で、捕獲効率が最も良い。	○ 漁具の入り口と誘引餌が十分に水中に浸る水深があり、流れが緩やかな場所であれば設置可能。	△ 設置に必要な水深が足りない場合が多い。
人工巢穴	○ 抱卵雌、抱稚仔雌を効率よく駆除可能。	○ 水深が浅く、流れがごく緩やかな場所であれば設置可能。抱卵雌、抱稚仔雌を効率よく駆除可能。	◎ 浅い水深でも設置可能。抱卵雌、抱稚仔雌を効率よく駆除可能。
タモ網・サデ網	△ ため池は安全な浅場が少なく、駆除作業が困難な場合も多い。	◎ 水路内のゴミ等とまとめてすくい上げることで効率よく駆除可能。	△ 浅い場所に集まった小型個体をすくい上げることは可能。

凡例 ◎:とても適している、○:適している、△:条件によっては適さない

※1: 浅い場所へのカゴ網(一般的な角型カゴ網を想定)の設置水深の目安として、既往事例では、水深25cm以上ある箇所を設置することが適切と提案している<sup>25)</sup>。

※2: 「漁具の入り口と誘引餌が十分に水中に浸る水深があり」は、以下の図の様な状況を想定する(図3-6 左)。一方で、アメリカザリガニは陸上を移動することもできるため、誘引餌が水中に浸っていれば入口全体が浸っていなくとも、十分捕獲できる場合もある(図 3-6 右)。

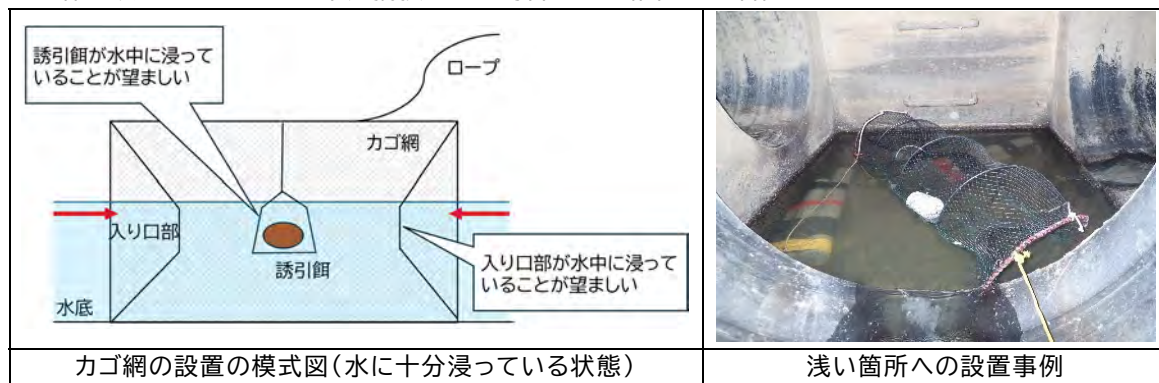


図 3-6 カゴ網の設置模式図と浅い箇所への設置事例(右図写真:愛知県安城市)